

県内経済は、生産活動で回復に向けた動きが続いているが、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、個人消費も一部に明るい動きはみられるものの総じて低調に推移するなど、厳しい状況が続いている。

1. 平成22年5月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食品、身の回り品などが軒並み低調に推移し、12ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、補助金や減税の効果から普通車、小型車、軽乗用車とも前年を上回り、合計では10ヵ月連続で前年を上回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が5ヵ月連続で前年を上回るなど、回復に向けた動きが続いている。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が5ヵ月連続で前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が10ヵ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家、分譲が前年を上回り、合計では9ヵ月ぶりに前年を上回った。倒産状況は、負債金額10百万円以上の倒産件数、負債総額とも前年を下回った。雇用情勢は、有効求人倍率（季節調整値）、新規求人倍率（季節調整値）とも2ヵ月ぶりに前月を上回ったが、依然として厳しい状況が続いている。

〔消費動向・一部に明るい動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、厳しい雇用・所得環境が続く中、衣料品を始め飲食品や身の回り品など軒並み低調に推移し、全店舗ベースで184億97百万円（前年同月比△4.5%）と12ヵ月連続で前年を下回った。乗用車新車販売は、普通車、小型車、軽乗用車とも補助金や減税の効果から前年を上回る動きが続いており、合計では10ヵ月連続で前年を上回った。消費者物価指数は、前月比0.1%上昇し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。また前年同月比では1.2%下降し、16ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、携帯電話、パソコン、DVDレコーダー等が好調に推移する一方、エコポイント効果は続いているものの、薄型テレビの勢いが前年より落ち、また冷蔵庫、エアコン等も振るわず、合計では前年を下回り推移した。ホームセンターは、天候に恵まれ園芸、植物が好調だったものの、節約志向から、日用品、家庭用品、インテリア用品等が振るわず、合計ではほぼ前年並みの水準となった。旅行取扱額は、国内・海外の個人ならびに団体とも、景気低迷や所得環境の悪化などから前年を下回り推移した。

〔投資動向・足元改善〕

5月の公共工事前払保証取扱は、件数は15ヵ月ぶりに前年を下回ったが、請負金額は5ヵ月連続で前年を上回った。4月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数は10ヵ月ぶりに、床面積、工事費予定額は、2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。5月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲が前年を上回り、合計では9ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔生産活動・回復に向けた動き〕

4月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、92.6（前月比△4.9%）となり、2ヵ月ぶりに前月を下回ったが、原指数では88.4（前年同月比+24.9%）となり、5ヵ月連続で前年を上回るなど回復に向けた動きを続けている。5月の大口電力販売量は、5ヵ月連続で前年同月比二桁増となるなど、6ヵ月連続で前年を上回った。特に、非鉄金属や輸送機械で好調が続いている。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が4ヵ月連続で前年を下回り、負債総額は3ヵ月連続で前年を下回った。

〔金融動向・貸出金鈍化〕

5月末の預金残高は前年同月比+1.8%と39ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△1.8%と7ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・下げ止まりの動き〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.40倍となり2ヵ月ぶりに前月を上回った。また原数値では0.35倍となり、2ヵ月連続で前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.76倍となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。また原数値では0.70倍となり、4ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		22年3月	4月	5月	22年3月	4月	5月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	乗用車新車登録台数	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	消費者物価指数（総合）	↘	↘	↘	↘	↘	↘
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↘	↘	—	↘	↘	—
	新設住宅着工戸数	↘	↘	↘	↘	↘	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↘	↘	—	↘	↘	—
	大口電力販売量	↘	↘	↘	↘	↘	↘
企業倒産	企業倒産件数注2	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	企業倒産金額注2	↘	↘	↘	↘	↘	↘
金融動向	預金	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	貸出金	↘	↘	↘	↘	↘	↘
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	新規求人倍率（パート含む）注3	↘	↘	↘	↘	↘	↘

良化 ↘ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇐⇒ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐⇒ 悪化 ↘

注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

消費動向

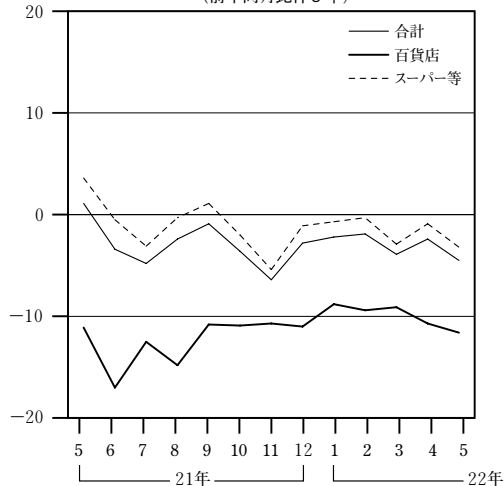
大型小売店 5月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が厳しい状況が続く中、初夏物衣料全般が振るわなかったことに加え、節約志向から飲食料品や身の回り品も低調に推移し、全店舗ベースで184億97百万円（前年同月比△4.5%）と12ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同7.1%減と18ヵ月連続で前年を下回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服をはじめ全般的に振るわなかったほか、飲食料品、身の回り品も前年を大きく割り込み、全店舗ベースで25億45百万円（同△11.6%）と、既存店ベース（同△5.3%）とともに33ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、節約志向が強まる中、主力の飲食料品の売上が前年を下回ったほか、衣料品や身の回り品も前年を大きく下回り、全店舗ベースで159億52百万円（同△3.2%）と8ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでも同7.4%減と、12ヵ月連続で前年を下回った。

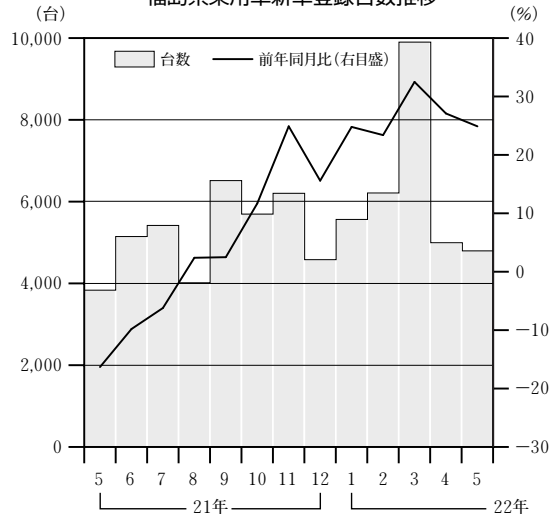
乗用車販売 5月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で4,904台（前年同月比+22.6%）となり、減税や補助金効果により10ヵ

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）

月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通車は1,505台（同+42.8%）と11ヵ月連続で前年を上回った。小型車は1,742台（同+16.5%）と10ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は1,657台（同+14.3%）と3ヵ月連続で前年を上回った。

5月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で7,893台（前年同月比△0.2%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると普通車は2,206台（同△2.2%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。小型車は3,010台（同△0.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車は2,677台（同+1.8%）と3ヵ月連続で前年を上回った。

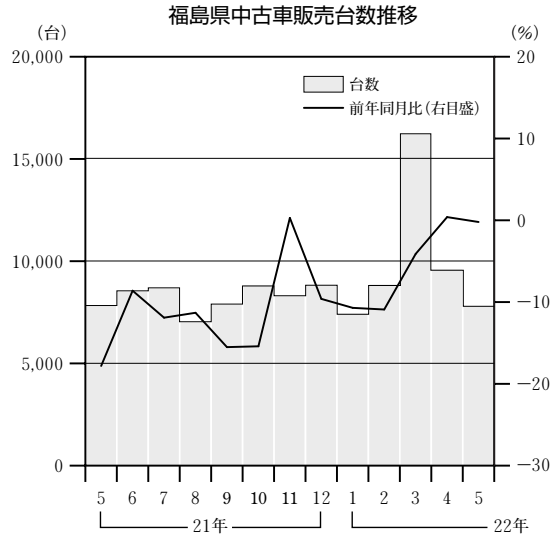
消費者物価指数 5月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、99.9（前月比+0.1%）となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。前年同月比では1.2%下がり、16ヵ月連続で下降した。

費目別の指数動向をみると、「光熱・水道」が106.6（前月比+1.5%）、「被服および履物」が105.7（同+0.9%）、「交通・通信」が99.5（同+0.8%）、「保健医療」が96.9（同+0.7%）、「諸雑費」が101.4（同+0.3%）、「教養娯楽」が95.3（同+0.3%）と6費目で前月比上昇した。一方、「家具・家事用品」が88.5（同△1.2%）、「食料」が104.3（同△0.4%）、「住居」が98.5（同△0.4%）と3費目で前月比下降した。また、先月高校授業料の無償化の影響から大きく下降した「教育」は、82.9と前月と同じであった。

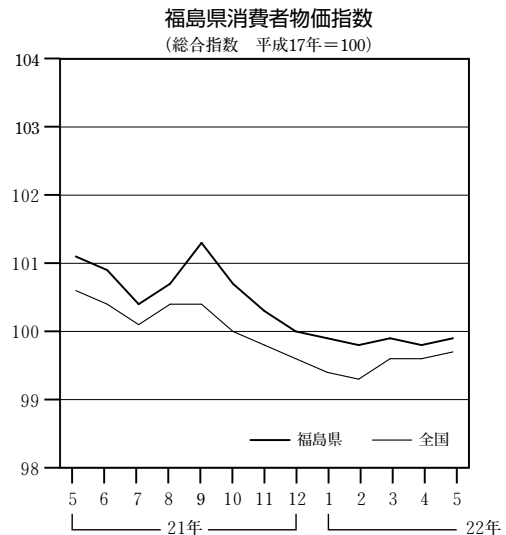
家電量販店 5月の売上状況は、携帯電話、パソコン、DVDレコーダー等が好調に推移する一方、エコポイント効果は続いているものの、薄型テレビの勢いが前年より落ち、冷蔵庫、エアコン等も振るわず、合計では前年を下回り推移した。

ホームセンター 5月の売上は、節約志向が続く中、天候に恵まれたことから園芸植物が好調に推移し、日用品、家庭用品、インテリア、カーレジャー用品などが振るわなかったものの、合計ではほぼ前年並みの水準となった。

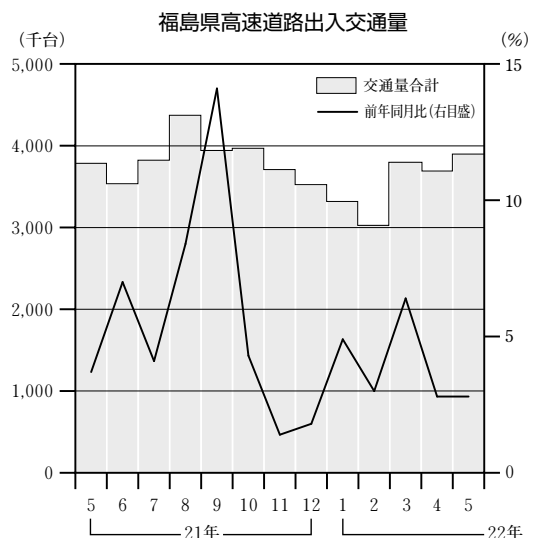
旅行 5月の旅行取扱額実績は、景気低迷や所得環境の悪化などから盛り上がり欠け、国内・海外の個人並びに団体とも、前年を下回り推移した。



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

高速道路 5月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」の効果などから、3,921,711台（前年同月比+2.8%）と14ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,205,868台（同+2.1%）と6ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は285,058台（同+7.1%）と3ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は616,108台（同+0.8%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は814,677台（同+5.0%）と14ヵ月連続で前年を上回った。

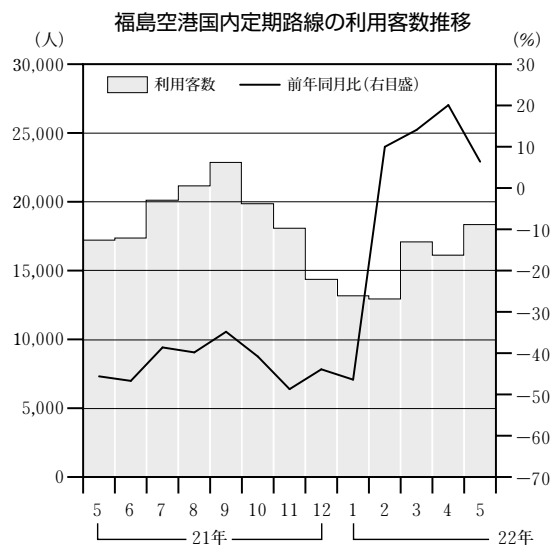
福島空港 5月の福島空港国内定期路線の利用状況は、18,494人（前年同月比+6.4%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は7,953人（同△11.0%）、大阪便は10,541人（同+24.7%）となった。一方、国際定期路線の利用状況は、5,533人（同+43.8%）と前年を上回った。路線別にみるとソウル便は4,574人（同+73.5%）、上海便は959人（同△20.8%）となっている。

—— 投資動向 ——

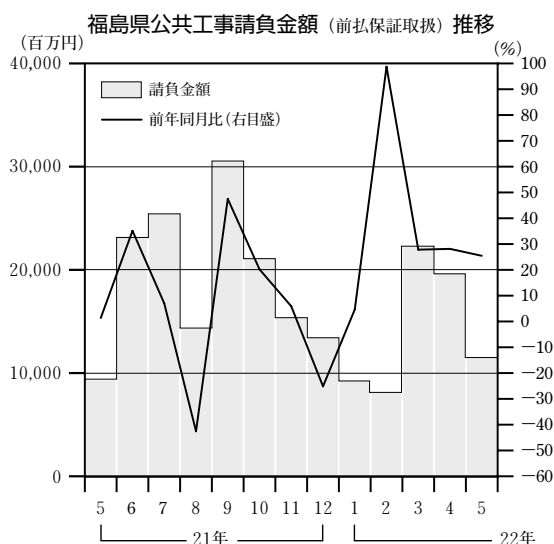
公共工事 5月の公共工事前払保証取扱は、件数が246件（前年同月比△7.5%）と15ヵ月ぶりに前年を下回った。請負金額は116億28百万円（同+24.0%）、保証金額は38億96百万円（同+15.7%）となり、それぞれ5ヵ月連続で前年を上回った。

なお、年度累計（2010年4月～5月）では、件数が前年同期比25件増加し、610件（前年同期比+4.3%）、請負金額が同64億2百万円増加し、313億77百万円（同+25.6%）、保証金額が24億20百万円増加し、115億3百万円（同+26.6%）となっている。

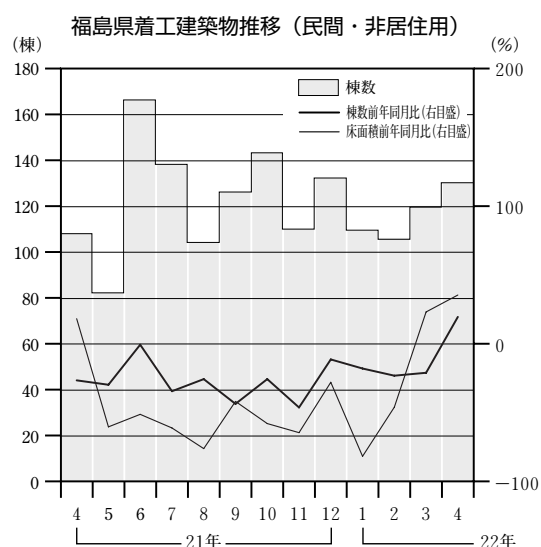
5月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比5億84百万円増加し、13億17百万円（同+79.7%）となった。独立行政法人等（東日本高速道路株式会社など）は同35億1百万円増加し、40億11百万円（同+686.5%）となった。県は同33億18百万円減少し、23億15百万円（同△58.9%）となった。市町村は同16億65百万円増加し、38億44百万円（同+76.4%）となった。



（資料：福島県商工労働部空港交流課）



（資料：東日本建設業保証株式会社）



（資料：国土交通省）

設備投資 4月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が131棟（前年同月比+20.2%）と10ヵ月ぶりに前年を上回った。床面積は78,842㎡（同+36.1%）、工事費予定額は176億39百万円（同+104.7%）となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を上回った。

5月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、668件（前年同月比+1.4%）と3ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は118件（同△18.1%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は550件（同+6.8%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は15件と前月比8件増加し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

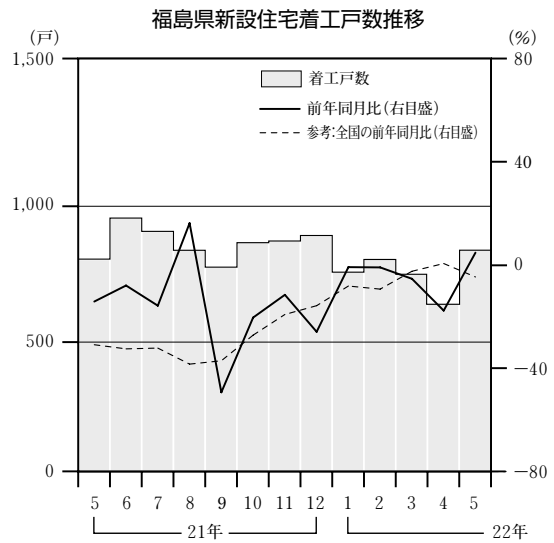
建築物着工の先行指標である5月の建築物申請件数は、695件（同+2.8%）と4ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は145件（同+0.7%）と5ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は550件（同+3.4%）と3ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は25件と、前月比5件増加し、2ヵ月連続で前月を上回った。

住宅建設 5月の県内新設住宅着工戸数は、807戸（前年同月比+4.8%）と9ヵ月ぶりに前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は489戸（同+28.7%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。「貸家」は191戸（同△45.4%）と2ヵ月連続で前年を下回った。「分譲」は125戸（同+212.5%）と6ヵ月ぶりに前年を上回った。分譲のうちマンションの着工戸数は、58戸と14ヵ月ぶりの実績計上となった。

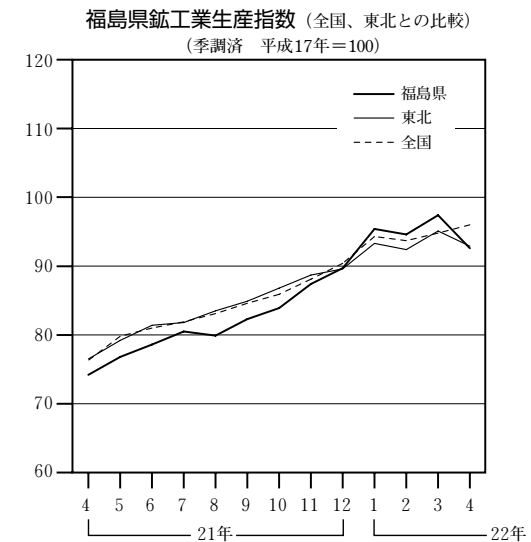
生産活動

鉱工業生産指数 4月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると92.6（前月比△4.9%）となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は88.4（前年同月比+24.9%）となり、5ヵ月連続で前年を上回った。

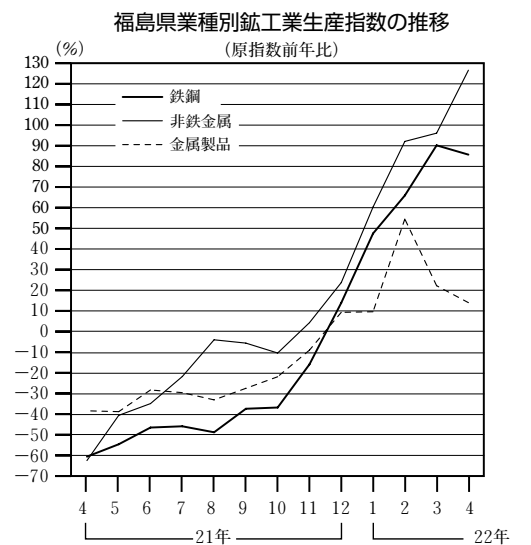
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、繊維工業で56.4（前月比+17.7%）、一般機械工業で111.0（同+7.7%）、輸送機械



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

工業で91.8（同+2.1%）など8業種で上昇した。一方、印刷業で61.1（同△26.8%）、精密機械工業で103.5（同△21.5%）、電気機械工業84.2（同△18.3%）など12業種で下降した。

化学 5月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は、好調が続いており、炭素繊維、工業製品（化成ソーダ等）なども持ち直しの動きがみられた。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産やバリウム化合物（電子部品原料）の生産は、持ち直しの動きが続いている。

鉄鋼・金属 5月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材および自動車向け端子材とも、前年を大幅に上回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが回復、国内向けが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要および海外需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品の生産は、前年をやや下回り推移した。

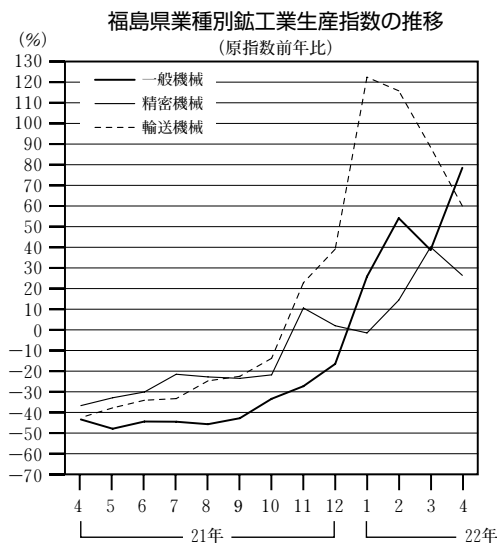
輸送用機械 5月の自動車用鋳造品の生産は、海外向けが復調し、前年を大きく上回り推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内販売の復調を受け、持ち直しの動きが続いている。カーナビ・カーオーディオの生産も、前年を上回る水準で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。

電気機械 5月の変圧器、自動車モーターの生産は堅調に推移し、配電盤、電熱炉の生産が振るわなかったものの、全体では前年をやや上回った。

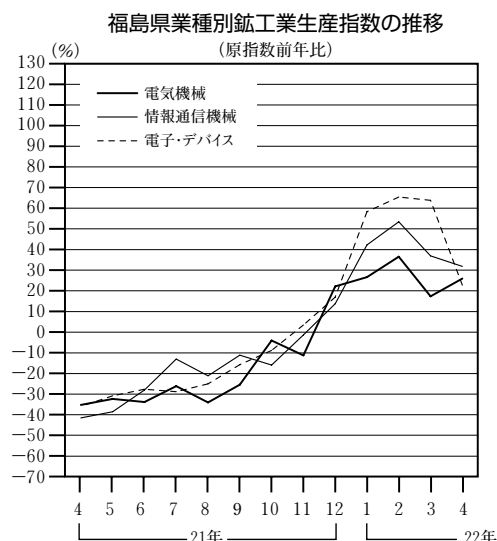
情報通信機械 5月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが依然低調、前年を下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 5月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品、産業機器、パソコン・OA 向け等が好調、AV・ゲーム機・家電向けなども前年並みの水準で推移し、持ち直しの動きが続いている。

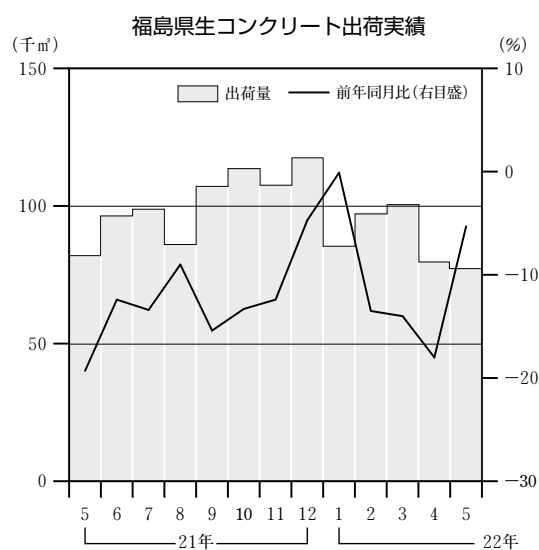
精密機械 5月の医療用内視鏡の生産は、前年を上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、持ち直しの動きが続いており、前年を上回る水準で推移した。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

紙・紙加工品 5月のノーカーボン紙、感熱紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

窯業・土石 5月の生コンクリート出荷量は、全体で78,014m³（前年同月比△5.3%）と14ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、会津地区でダム取水トンネル建設工事等、相双地区で国道整備工事により、民需では相双地区で火発増設工事等、会津地区で化学系の工場増設工事等により増加した。

清酒 5月の清酒移出数量は、1,016kl（前年同月比△10.9%）と20ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が333kl（同△10.7%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、683kl（同△11.0%）と20ヵ月連続で前年を下回った。

合成繊維物 5月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、前年をやや上回り推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

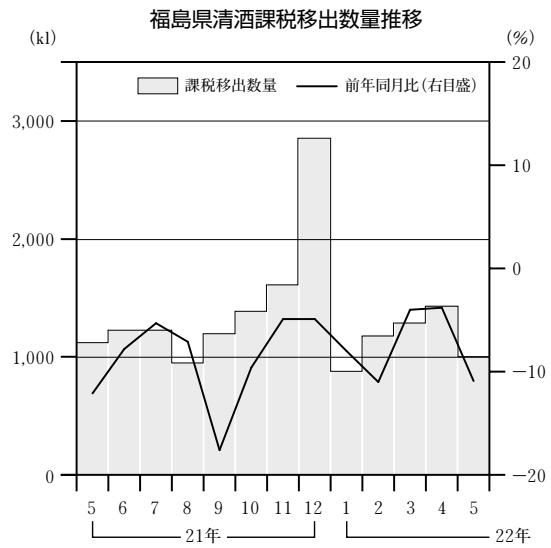
ニット 5月のニットの生産は、秋物生産が中心であるが、国内需要の低迷から、受注・生産は低調に推移した。

大口電力 5月の大口電力販売量は、516百万kw/h（前年同月比+9.5%）と6ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で127百万kw/h（同+14.0%）、「電気機械」で91百万kw/h（前年同月比△13.0%）、「化学」で53百万kw/h（同+6.6%）、「輸送用機械」で50百万kw/h（同+31.2%）、「一般機械」で23百万kw/h（同+15.5%）、「紙・パルプ」で26百万kw/h（同+75.0%）となっており、特に、非鉄金属や輸送用機械で好調が続いている。

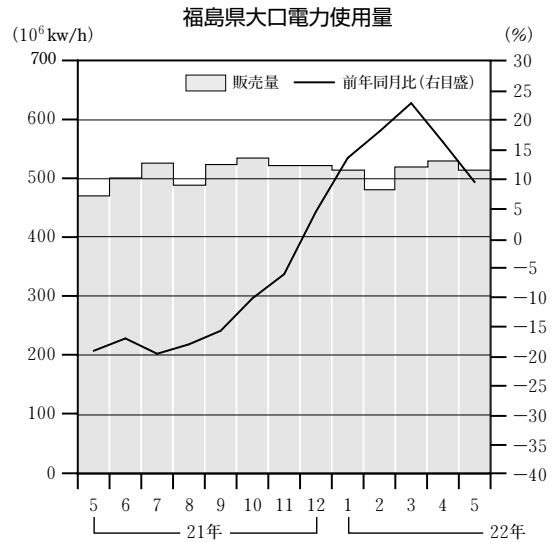
—— 企業倒産 ——

企業倒産 5月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が5件（前年同月比△64.3%）となり、4ヵ月連続で前年を下回った。負債総額は、24億36百万円（同△69.9%）となり、3ヵ月連続で前年を下回った。

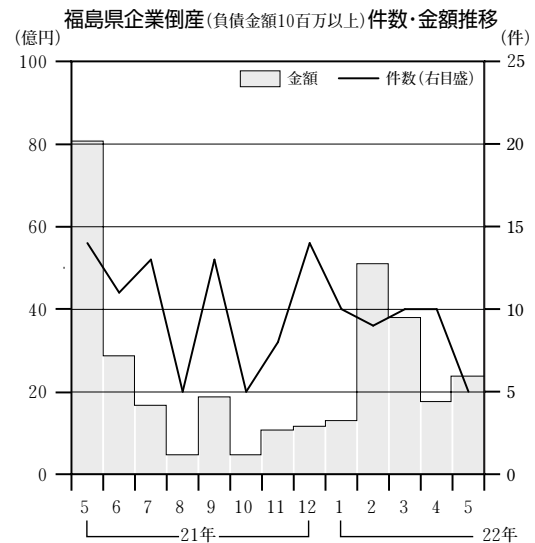
年間累計（2009年1月～5月）では、倒産件数



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

が前年同期比14件減少し、44件（前年同期比△24.1%）、負債金額が同37億31百万円減少し、144億13百万円（同△20.7%）となっている。

倒産主因別内訳は、5件全てが受注・販売不振など不況型倒産であった。業種別内訳は、建設業、製造業、卸売業、運輸・通信業、サービス業が各1件となった。また、地区別内訳は、県南（郡山市以南）が4件、会津が1件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の5月末の預金残高は、6兆5,354億円（前年同月比+1.8%）と39ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,030億円（同△1.8%）と7ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 5月の保証承諾は、件数が869件（前年同月比△21.5%）、保証金額が84億48百万円（同△28.5%）となった。5月末日現在の保証債務残高は、件数が43,257件（同+0.2%）、金額が3,510億69百万円（同+1.7%）となった。また、5月中の代位弁済は、件数が54件（同△30.8%）、金額が4億14百万円（同△34.9%）となり、それぞれ3ヵ月ぶりに前年を下回った。

雇用動向

雇用動向 5月の新規求人数（原数値）は、7,847人（前年同月比+16.9%）と3ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、11,225件（同+10.4%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.76倍（前月比+0.07_割）と2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.70倍（前年同月比+0.04_割）と4ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.40倍（前月比+0.02_割）となり、2ヵ月ぶりに前月を上回った。原数値は0.35倍（前年同月比+0.04_割）と2ヵ月連続で前年を上回った。

